



# 飛翔

令和2年度 西津小学校  
学校だより 第25号  
令和3年3月8日



## 3月があっという間に去って行きそうです！

春を象徴する梅の香かおる3月に入り、早や1週間が過ぎました。3/19(金)の卒業式につきましては、今年度も規模を縮小して実施させていただきます。在校生は5年生のみの参加となりますが、これまでお世話になった6年生への恩返しの意味でも、3/12(金)の六遊会や卒業式に向けて準備や練習を重ねています。

さて、今年度はコロナ禍に終始した一年となりました。下の拙文はPTAだよりNo.134に寄稿させていただいた〈校長の言葉〉の続編として書かせていただいたものです。ご覧いただければ幸いです。

### 続・禍を転じて！

「発想を転換してピンチをチャンスに変えるべし」。この4年間、西津小で勤務させていただく中で得た教訓の一つです。「ハードルは高いほどぐりやすい」と言われますが、困難にぶつかったときに良い意味で開き直り、柔軟な発想で克服することの重要性を実感しています。特に今年度は大いにその必要に迫られた1年となりました。

今日、「多様性の尊重・承認」が教育の分野においても重要視されています。未来を担う子どもたちには、「多様な価値観を受け入れて、対話しながら協働する力」を磨いて欲しいと願っていますが、やり方や考え方は三者三様で、相手のネガティブな面を意識すればするほど、相手との違いを尊重することが難しくなります。「自己肯定感がある人は自分も大切に、他者の価値観も尊重することができる。」とされています。ありのままの自分を愛することができるよう、学校では小さなことを褒めたり、ポジティブな面を強調して伝えたりしています。また、人との比較ではなく、みんなでその子なりの良さや努力を認め合ったり、短所を長所に言い換えたりすることで自信が深められるような支援をしています。ちなみに「だらしない」「飽きやすい」「調子にのる」…は私の性格を端的に表した言葉ですが、「小さいことは気にしない」「気持ちの切り替えが早い」「周りを明るくする」…と好天的に置き換えています。

二つ目の教訓が「自分の限界を知って人に頼るべし」です。中学校で学級担任や部活動顧問を務めていた20～30代の頃は、自力での課題解決が仕事における責任と捉えていました。年齢を重ねるとともに校務分掌も変わり、自分一人では到底すべてを成し遂げられないことが年々増えてきました。地域における区長業務などもその一つでした。多くの方々に支えられ、助けられて難局もどうにか乗り越えられたように思います。今では、いつでもどこでも誰にでも頼ることができ、一人で悩むより遥かに上手くいくことやより早く仕事が進むこと、そして楽しいことを知っています。そもそも、私たちは人から頼られると嬉しいものですし、誰かの役に立つのが嬉しいことは、子どもたちに仕事を任せたり、感謝の言葉を伝えたりしたときの表情からも伺えます。

今、このような時代だからこそ、生活様式だけではなく思考様式をも転換して、大いに人（友達や周囲の人、先哲など）の力に頼る生き方を大事にしたいものです。奇しくも、区の初総会で三年任期の氏子総代を仰せつかりました。

「困ったときの神頼み」で幾度となく力を貸していただいた神様に、少しばかり恩返しができればとポジティブに捉えています。



## 3/3(水)に通学見守り隊感謝の会を行いました

毎日の通学路における見守り活動のお陰で、大きな事件や事故もなく、子どもたちが安全に登下校することができています。暑い日も寒い日も、そして雨や雪の日もありますが、「地域の子ども」という眼で温かく見守っていただいています。交差点や横断歩道を安全に渡らせていただいたり、子どもといっしょに登下校を付き添っていただいたりしています。3名の方は都合で出席していただけませんでしたが、6年生代表の児童が感謝の言葉を述べた後、心ばかりの感謝の品をお渡ししました。  
\*表題横の写真は、感謝の会のようすです。



## 学校評価アンケート結果の報告について

昨年12月、保護者の皆様には学校評価アンケートを実施させていただきました。学校だより第9号でお知らせいたしましたように、児童及び保護者アンケートの結果を「成果と課題」とあわせて別紙にて報告させていただきます。なお、自由記述欄には、たくさんの貴重なご意見をいただきました。返答が必要だと思われるご意見(同内容については省略)と嬉しい励ましのご意見を別紙に記載させていただきましたのでご一読ください。